



からすの「かーこう」

校長 伊勢 明子

担任時代、勤務していた学校での話です。全校朝会に行くため外の渡り廊下で子どもたちを誘導していたときのことで。突然、目の前に黒い大きなかたまりがバタバタと飛び出してきました。よく見ると羽が痛み片足の折れたからすでした。からす同士の戦いに負けたのかもしれませんが。子どもたちの目の前で、何とか飛ぼうともがいていました。

恐怖で立ちつくしていた私のところへ当時の校長先生が走ってきて、そのからすを上手に子どもたちから遠ざけてくれました。

校長先生は、このからすを四方を校舎に囲まれた「光庭」で飼い出しました。光庭は、校長室に面していて校長先生は、このからすを「かーこう」と呼んで餌を与え出しました。最初は、弱っていても警戒をとかず、光庭をウロウロしていた「かーこう」でしたが、校長先生が箸ではさんで与えた肉に徐々に近付き、あるときパクッと食いつきました。それから、校長先生は、肉を買ってきては冷凍し、それを解凍しては「かーこう」に与えました。光庭側の窓を開け校長先生が「かーこう」「かーこう」と呼ぶと「かーこう」は、片足でピョンピョンとやってきては、校長先生が箸で差し出す肉にパクッと食いつき、ウググ、ウググと喉を鳴らして食べました。弱

っていた体もだんだんと回復しました。校長先生は生き物好きですずめに餌を与えたり弱ったシジュウカラを介抱して自然に返したりしていました。週末も学校に来て生き物の世話をしていました。

あるとき、校長先生は週末、遠くへ出張に出かけてしまいました。私は、「かーこう」のことが気になり学校に行きました。「かーこう」は、おなかのすいていたのか所在なげにウロウロしていました。校長先生がしていたように肉を解凍し箸ではさみ「かーこう、かーこう」呼びました。窓のところにバタバタとやってきて箸ではさんだ肉をパクッと食べ喉をウググ、ウググと鳴らしました。怪我を負っても必死で生きようとする「命の音」が聞こえるようでした。校長先生が居ないときは、私がお世話係になりました。学校の子どもたちも登校すると「かーこう」の無事を確認し大事に見守るようになりました。「かーこう」の話題は他の学校にも広がりました。

それから、数年経って私は他区の学校に異動しました。「かーこう」の話は、その後聞くことがありませんでした。「かーこう」は、きっと怪我が治り、また、空に戻っていったと信じています。多分、当時大切に見守っていた子どもたち、そして私も「かーこう」のことは、生涯忘れないと思っています。

5月の生活目標『安全にろう下を歩こう』

生活指導部

新学期が始まり、1か月が過ぎました。子どもたちも新しい学級に慣れ、懸命な姿で学習に取り組み、友達と仲良く関わっている様子が見られます。そんな中、校内でのけがも多く見られる時期となりました。

今月の生活目標は「安全にろう下を歩こう」です。

スポーツフェスティバルに向けて、練習が始まることで、気持ちが落ち着かなくなる時があるかもしれません。そんな時、どのように過ごせばよいでしょうか。

たとえば・・・

- ①廊下・階段は右側をゆっくり歩く。
 - ②雨の日は、教室で安全に静かに過ごす。
- 安全について気を付けることが、他にも多くあると思います。

学校生活に慣れ、慌ただしくなってきた今、各御家庭で学校での生活について改めて考えてみてください。

